

活動プログラム	No.10 ツリーイング (Tree+ing)		
期待される効果	 達成感	 環境学習	 挑戦
プログラム概要	ツリーイングはロープを使った木登りです。普段下から見上げている大きな木に登り、上から景色を眺めてみよう。木に登り(climbing)、木から学び(learning)、分かち合う(sharing)ことを大切にしています。		
対象	おおよそ5歳以上	人数	最大40人
時期	5月上旬～11月中旬	場所	自然の家周辺のツリーイングエリア
金額	体験プログラム料金表参照	大人の人数	1団体に1人以上

準備物	団体ごと	救急バッグ
	服装 個人装備	長袖・長ズボン・はきなれた靴(サンダル不可)・水筒・汗拭きタオル カッパ、(上下セパレート)・防寒着・軍手(滑り止め付き)
美方高原で レンタル可能な物		ツリーイングで使用する装備一式

活動のタイムスケジュール(例)

時間	運営	安全上のポイント
9:00	集合 ツリーイングエリアへ出発(各自)	集合前にトイレを済ませておく
9:15	エリア到着 挨拶 インストラクター紹介 装備の説明 装着 準備体操	インストラクターの話をよく聞き、 装備装着のサポートをする ※ハーネスの装着はインストラクターが行うため、指示に従う
9:40	登り方の説明	引率の方も必ず説明を受ける
9:50	体験開始	引率の方も一緒に登り、子どもたちと アドバイスをし合うことで、危険なこと にも気づきやすくなる。
11:10	ふりかえり 登った木へ挨拶、装備返却	怪我や道具の破損を防ぐため、最後まで サポートをする
11:30	エリア出発	
11:45	施設到着・解散	体調の確認

開始時間は2交代は9時、13時

補足ポイント

- ツリーイングは、説明さえしっかり聞けば誰にでも楽しむことが出来るアクティビティです。
- 障害をお持ちの方でも、その方に合わせた道具を使用して体験をすることができます。
事前にお問い合わせください。
- ハーネスを装着するとトイレにすぐに行けなくなります。必ず先に済ませておいてください。
- ツリーイング実施の基本は1日2交代の2時間45分の枠となります。
- 低学年の場合や大人の場合、道具の関係で40名が一度に体験できない場合があります。
- ツリーイングエリアでは、事故防止のため、ヘルメット着用と移動では走らない。

活動 プログラム	No.10	ツリーイング (Tree+ing)
-------------	-------	-------------------

予期されるリスク	リスクに対する対応
熱中症、脱水症状	水分補給の声掛けや、適度な休憩をとらせる
冷えによる低体温	天候によって防寒着や雨具が必要になることがあるため、必ず持参してもらう
天候不良	当日の天候や予測を確認し、著しく悪化する場合はプログラムの時間変更、もしくは中止する。
ハチとの遭遇	遭遇した場合の対応を伝えておく。 樹木はハチの住処や餌場になるため、事前の調査が必要。
落下、失神、髪の毛の巻き込み等	リスクある行動抑止のための注意喚起と、もしものためのレスキュー訓練を受けたインストラクターの帯同。
その他のケガ、体調不良	長袖長ズボンのちやくようと、走らない様こえかけ。救急バッグを携帯し、応急手当の準備をする。事前の体調調査、当日の確認を行い、バックアップ体制を整えておく。

事前点検・準備事項
ロープやカラビナ、ハーネス手袋など装備類は適切な状態か。
エリアの樹木や林床は荒れていないか。
セッティング後インストラクター有資格者が確認を行ったか。
ハチの巣など危険なものはないか。
天候の情報を確認して、適切な対応をしたか。
参加者の年齢、人数、スタッフ数、体調面などの情報は入っているか。
運営方法やタイムスケジュールは明確で共有されているか。
施設準備物は使用可能な状態か。または数は揃っているか。
参加者もしくは団体への持ち物の伝達は行ったか。

活動時のインストラクション (必須事項)
長袖長ズボンに履きなれた靴で活動させること。また靴が落下しないようにしっかり紐を結んでおく。
髪の毛の長い方は必ずゴムでくくってまとめてもらう。ロープに絡まることを防ぐ。
道具の使い方や装着方法、登り方の説明を全ての参加者へ聞かせる。
ルールを守り、インストラクターの指示には必ず従うよう説明する。
適宜塩分、水分補給を促すこと。
ハチは刺激しないよう注意させること。